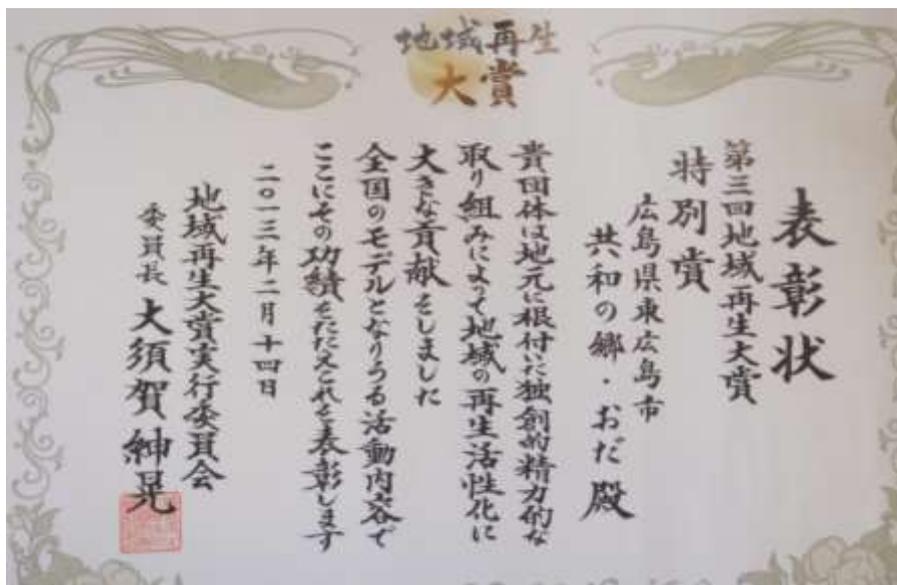


自治組織「共和の郷・おだ」地域再生大賞を受賞(2月14日 報告)

自治組織「共和の郷・おだ」が「地域再生大賞」の特別賞を受賞しました。

「共和の郷・おだ」が設立し10年になりますが、「住みよく楽しく明るい地域づくり」をめざして、地域活性化に取り組んできました。この間、歴代の役員をはじめ、区民各位のご努力の賜物であると深く感謝申し上げます。共に喜びを分かち合いたいと思います。



受賞を機に「共和の郷・おだ」の歩みや、受賞理由を述べてみたいと思います。

小田小学校の廃校、保育所の統合、診療所の移転等がきっかけで、皆さんの危機意識が高まり自治組織「共和の郷・おだ」が平成15年に設立されました。東広島市への吸収合併で、市の遠隔部となり、ますます行政サービスが低下し、切り捨てられ、安心して暮せなくなるかもしれないという危機感が、小田区民の自治意識を高め、「自分たちの手で地域を作り、活性化しよう」という気運が盛り上がりました。

同年1月から9月までの間、33回の会合が開かれ、準備会の開催、講演会・視察研修、役場・議会との意見交換等を経て、同年10月皆様のご理解とご支持を得て、地区の全世帯の参加による自治組織「共和の郷・おだ」が設立されました。

ネーミングは最初「おだ村」という仮称でありましたが、小田区民の皆様から募集したところ、「みんなが協同して仲良く手を取り合って、小田の郷を活性化させていこう。」という意味あいから、名称は「共和の郷・おだ」となりました。

そこで、小田地域を代表する組織「共和の郷・おだ」として行政に働きかけ「旧小学校」を診療所、地域センター(会議室、調理室、談話室、大ホール、グランド～)として活用し今日に至っています。平成24年に組織を再編成し5部から8部会に改正いたしました。(総務企画部、農村振興部、環境保全部、福祉ふれあい部、文化教育部、体育健康部、女性部、白竜部)いわゆる小さな疑似役場のような組織をつくりました。

また、平成15年荒廃地が増加しつつある農地と、農業をどう推持するかが大きな課題となっていました。当時の資料によると「農村振興部の活動方針」には次のような方針が提示されています。

「農家の高齢化が進み、担い手の不足、遊休農地や耕作放棄地が増加し、併せて米価下落により農業所得が減少し、農業者個人での農業の維持が厳しい状況にある。このような課題を解決していくため、現状を十分認識し将来方向を設定するための実態調査を実施して、農地の集積等低コストで効率的な集落営農システムを早急に確立し、地域の農業生産活動と集落機能の維持・活性化を図っていくこととあります。

この方針を具体化するため、農村振興部が主催して「これからの集落営農のあり方」を検討するため、運営委員を対象に、平成16年6月に3回「共和塾」を開設し法人経営の勉強会を開催いたしました。

共和の郷・おだで今後の地域農業の行く末に関するアンケート調査を行ったところ、「5年後に農業ができない」が42%、10年後には64%であることが明らかとなりました。

そこで、祖先伝来の農地を守り、集落を崩壊させず維持発展させるためには、集落法人を設立するしかないと決定し、平成17年に農村振興部が中心となり「農事組合法人ファーム・おだ」が設立されました。小田の小学校区を1つの農場としてまとめ、効率的で安定的な農業経営ができる集落法人として発足いたしました。



藏田市長、坂本議長、高橋副議長様に受賞の報告をする

「中山間直接支払い制度や農地・水・保全向上対策事業」の助成金等も利便性を活かして活用してきました。「農事組合法人ファーム・おだ」を母体として、米粉パン工房、パン&米夢（マイム）が生まれました。農山村地域経済研究所長の楠本雅弘氏によると『小田地区における、自治組織（共和の郷・おだ）を1階部分とし、2階部分に「農事組合法人ファーム・おだ」を中核とする多彩な住民協同活動（パン&米夢、寄りん菜屋等）を据えた地域再生運動は、「2階建て方式の進化型」（すなわち「新2階建て方式」）と位置づけることができる』と評価しておられます。このたびの受賞を機会に「地域再生大賞受賞報告会」を計画しております。

共和の郷・おだ 会長 瀬川豊茂

農事組合法人ファーム・おだ

第8回通常総会（報告 平成25年2月24日）

「農事組合法人 ファーム・おだ」が発足して7年目の経営を無事終了することができました。組合員各位はもとより、関係機関の皆様方のご支援とご協力の賜物と深く感謝いたします。

去る、2月24日に小田多目的集会所において、第8回通常総会を開催いたしました。来賓に藏田義雄市長をはじめ、高橋典弘市議会議員副議長、乗越耕司市議会議員の他、組合員多数の出席のもと盛大に開催いたしました。

出席組合員数は書面決議書を含め15名で森原敏昭議長の議事進行で、提出された5議案がすべて原案通り可決・承認されました。

今年小田地域に支払った集落還元額（地代、畦畔管理料、労務費、作業委託費など）は6,855万円と



吉弘組合長理事の挨拶

なりました。これは総収入額の51%に当たります。

本年度の販売額は、平成17年に法人を設立して以来最高の、年間総販売額80,776千円(前年53,740千円)となりました。営業外収益55,000千円を加えると、135,776千円の総収入額となります。当初の目標でありました1億円を達成することができました。

今年の前半は、天候が不順でしたが、後半は回復し猛暑となりました。広島県の水稲作況指数は102栽培農産物(化学肥料・農薬の使用量を50%減少した有機中心の栽培)の認証を受け、堆肥による土づくりを継続して行い、耕畜連携による農業生産を実現し、安全・安心な美味しい農産物生産を行っていることが、増収と品質向上(1等米比率99.5%)の大きな原因となりました。業者から好評ををくし、24年産米は注文が多く、不足する事態となりました。また、米粉パンは小田地区の皆様をはじめ県内から多くの来客があり、店頭販売を行っております。最近の農業情勢は、依然として先行き不透明な状態が続いております。昨年の衆議院総選挙によって、自由民主党が政権に返り咲きましたが、政権が変わっても我が国の農業に大きな影響をおよぼすTPP協定(環太平洋経済連携協定)の協議参加問題など、今後の対応がどのようになるのか、予断を許さない状況にあります。



幸い大豆は17t余り収穫し、地元の味噌加工グループに販売する他、大半は近隣の3法人と連携して、三原市の大手豆腐メーカーに全量販売する契約を行いました。小麦は30t収穫し、JA広島中央農協に全量販売いたしました。24年産は6月下旬の収穫期が好天に恵まれ、過去最高(前年11t)の収穫量となりました。アスパラガスは今年度から本格的な栽培になりますので、一層の法人の経営安定と小田地域の活性化に、組合員の皆様と一体になって取り組んで参りたいと思いますので、更なるご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(農事組合法人ファーム・おだ 組合長理事 吉弘昌昭)

1. 役員紹介(組順)

理事(14名) 勝田和波、小山盛次、住原正弘、木村孝登、上野満幸、大田俊夫、吉弘昌昭、
宅永和伸、山田正信、土肥利雄、谷平和則、間宮正光、玉川光則、中川 稔

監事(2名) 国原昭典、山脇邦昭、

2. 事業計画 作付け面積 70.2ha

| (1) 水稲作付け計画 | 46.9ha | 田植予定時期 |
|---------------|--------|-------------|
| コシヒカリ(普通) | 15.6ha | 4月24日～5月5日 |
| あきろまん | 4.0ha | 5月11日 |
| ヒノヒカリ | 26.4ha | 5月14日～6月6日 |
| ヒメノモチ | 0.9ha | 5月6日 |
| (2) 転作計画(33%) | 24.5ha | は種予定時期 |
| 大豆 | 7.4ha | 6月20日～7月10日 |
| そば | 2.0ha | 8月20日～25日 |
| 小麦 | 8.7ha | 11月7日～25日 |
| 野菜他 | 1.6ha | |
| 米粉用新規需要米 | 4.8ha | 5月4日～5月14日 |

- (3) 行事計画 (1) 第28回小田営農田植えまつりの開催。(5月)
(2) 第28回小田収穫まつりの開催。(10月)
(3) 各組毎の懇談会の開催。(3月) (4) 各種イベントへの参加。

第39回 小田一周駅伝競走大会を中止

2月3日に予定していた小田一周駅伝競走大会はインフルエンザ流行のため中止しました。13チームが参加する予定でしたがインフルエンザ警報発令中、9チームが不参加となり中止となりました。いろいろと準備していただいた役員の皆様、また中継所近くでたき火の用意をしていただいた地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。引き続き体育健康部の活動に、ご支援いただきますようお願いいたします。

共和の郷・おだ 会長 瀬川豊茂 体育健康部長 戸坂伊津巳

ホームページ作成に係る進捗状況について(報告)

総務企画部では、今年度の取り組みにホームページの作成をおこなっております。この事業の推進にあたっては、各部の部員で構成する「情報発信委員会」を設置し、これまで4回の当委員会を開催し、内容等協議を重ねております。

現在、ホームページの一部を公開しておりますので、ご覧をいただきたいと思います。今後、3月中旬頃までには、主なページの情報を発信する予定です。また、ブログを掲載しておりますのでご覧をいただきたいと思います。(検索は、共和の郷・おだでクリック)



ホームページ立ち上げの操作



ブログ発信の操作研修

総務企画部長 西村雅吉

丸椅子の贈呈 (報告)

この度、前女性会から丸椅子20脚の贈呈をしていただきました。小田地域センター調理室に設置いたしました。使いやすさと安定感のある立派な椅子をご寄贈いただきましたのでご披露いたします。

今後の調理実習や諸行事などで皆様にご活用していただきたいと思えます。これまでご活躍いただきました女性会のご好意に感謝いたします。大変ありがとうございました。

小田地域センター長 瀬川豊茂



寄贈された調理室の丸椅子

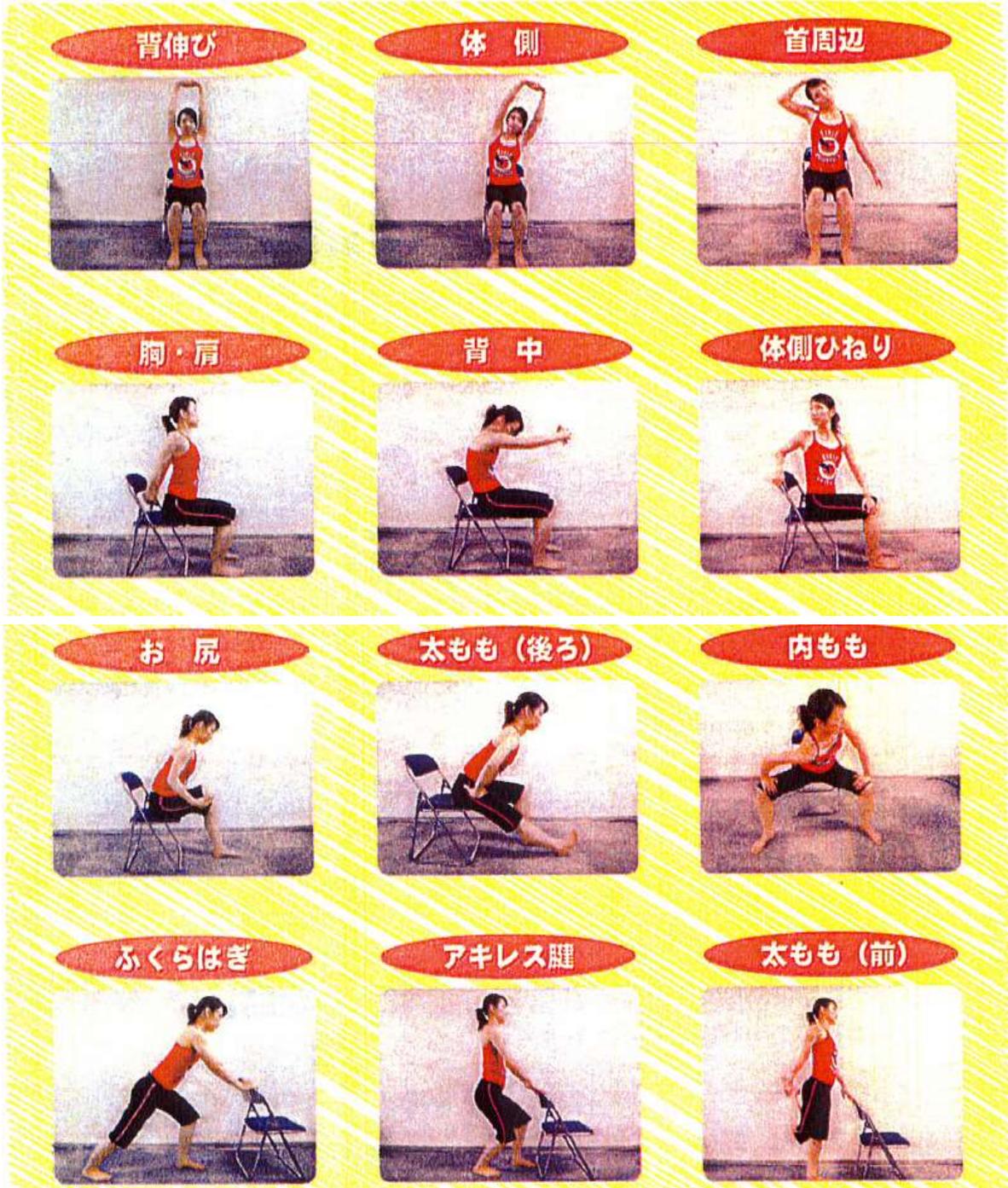
小田元気体操2月20日 (報告)

いすでストレッチング

ストレッチング(伸ばす)は、運動前の身体のウォーミングアップに、運動後の疲労回復に、筋肉痛の軽減に効果的です。運動をしなかった日でも、ストレッチを毎日の日課に取り入れましょう。(いすを使っても、使わなくてもよろしいです。)

(酒井紀子先生から指導を受けた内容と資料です。活用してください。)

反動をつけず呼吸を止めないように気持ちがいいところで伸ばしましょう



小田地域センター長 瀬川豊茂、白竜部会